

平成21年 5月 26日現在

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2006～2008

課題番号：18530114

研究課題名（和文）新聞広告・読書欄にみる東南アジア域内世論の相互「反響」モデル構築

研究課題名（英文）A study of the Regional "Repercussion" model of Southeast Asian Public Opinion

研究代表者

山崎 功(Yamazaki Isao)

佐賀大学・文化教育学部・准教授

研究者番号：60267458

研究成果の概要：エスニシティの観点からマレー系ムスリムと華人の問題、インドネシアと東ティモールの関係、社会階層的な見地から出稼ぎ者と域内経済格差の問題に焦点をあて、これらの問題が多層的・多角的に交差していると考えられる個々の事件・事例をもとに、各国・各地域世論の国内・域内「相互反響」動向の追跡分析と、世論動向のモデル構築を試みた。各国間の緊張が領土紛争、スポーツ競技、観光地でのいざこざ等を契機に一気に顕在化・扇情化する世論の連関・反響過程の一端が明らかになった。

交付額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2006年度	1,500,000	0	1,500,000
2007年度	1,400,000	420,000	1,820,000
2008年度	500,000	150,000	650,000
年度			
年度			
総計	3,400,000	570,000	3,970,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：政治学・国際関係論

キーワード：東南アジア、世論、エスニシティ、イスラム、華人

1. 研究開始当初の背景

域内世論の相互「反響」と言う言葉を提起、着目するにいたった背景については、次のような事例を示すことができよう。例えばあるタイ人女優の「失言」をめぐる小さな囲み記事報道が、国境を越えたカンボジアにおいて瞬く間に反タイ暴動へと発展した事例、あるいはアンバラット

領有をめぐる紛争報道がマレーシアにおけるインドネシア人労働者問題とまさに「共鳴」、「反響」を引き起こし、通常ならば報道されるはずのない個人の私的怨恨による小さな諍いまでもが人種、民族間の「事件」に関連づけられ報道、新聞紙面をにぎわせた状況があった。こうした背景下、東南アジアにおける宗教やエスニシティ

対立・紛争をめぐる意欲的実証研究が Robert Cribb、また北欧出身の Timo Kivimaki らによって次々と発表されていた。これらの研究動向は、アジア・太平洋域内における諸紛争を、各国ごとの枠組みを越え、歴史的、政治経済学的アプローチによって総合的に解明することによって、その紛争予防に向けた政策提言にむすびつけようとする大きな流れのひとつであったといえよう。

ところで1970年代以降、メディア人類学は報道・映像を人類学の対象としたメディア人類学が発展、80年代後半からは消費を対象とした研究が深化してきた。本研究が着目した広告に関する新聞投書の研究では真鍋一史などの成果が注目されていた。東南アジアを対象としたものでは、テレビに見るバリと消費文化を研究した M.Hobart、タイの映画産業と開発について A.Hamilton の諸研究などがあつた。こうしたなか、インドネシアにおいて、華人の文化的アイデンティティのありようを新聞メディアの死亡広告の分析を通じて明らかにしようとした試みが、同国における新聞広告をもとにしたエスニシティ研究の嚆矢として Iwan Awaluddin Yusuf によってなされたばかりの状況にあつた。(Iwan Awaluddin Yusuf, Media, Kematian dan Identitas Budaya Minoritas, Yogyakarta: UIIPr., 2005) こうした背景をふまえ、本研究に着手するにいたつたものである。

2. 研究の目的

(1) 域内「世論」の相互「反響」に着目した新たなエスノ・ナショナリズム再編成状況の解明

特にマレー系ムスリム各集団と華人系集団、カトリック教徒などの国内・域内各集団、階層からなる世論の国内・域内「相互反響」動向を分析解明することを目指した。その際には、社会学的「内容分析」、メディア人類学的手法と国際政治・経済における相互依存、地域連関の枠組みを接合、新たなエスノ・ナショナリズム再編成の

状況を明らかにする立体的なモデルを構築することをその主要な目的としたものであつた。

こうした方法論・理論枠組みをふまえ、インドネシア、マレーシア、シンガポールの3カ国、さらに東ティモールを対象とし、東南アジア域内各国において国境を越えてすすみつつあるエスノ・ナショナリズムの再編成と、バリ島爆弾テロ以降東南アジア地域にも連動波及しつつあるとも考えられる新たな「マレー系イスラム『大衆』状況」ともいべきものの動静、それに対する域内各エスニック集団(華人系及びクリスチャン)の国境を越えた世論の相互「反響」の連関過程を立体的に明らかにすることを目指した。

(2) 国際経済学にみる域内相互連関モデルの援用による域内世論「相互連関」モデル構築

端緒についたばかりの各国別のメディア人類学研究、域内紛争予防に向けた政治経済学的な総合アプローチを踏まえたうえで、さらにもう一步踏み込もうとすることを目指した。つまり先行の政治経済学、人類学成果をさらにすり合わせ、国際経済学では一般的かつ明白に見出される「域内連関」の枠組みを、エスノ・ナショナリズムの再編成過程における各世論の域内「相互反響」=「連関」へと準用し、新聞というメディアに表れた各記事に対する実証的な「内容分析」手法を通じて各国、各集団の世論の「相互連関・反響」を立体的に描き出す点にあつた。

3. 研究の方法

(1) 「世論」形成の背景・要因としての諸紛争への政治経済学・歴史学アプローチ

世論の国境を越えた域内相互「反響」分析の視点から、インドネシアとともに「マレー系イスラム」マジョリティを有する隣国マレーシア、さらにマレー系ムスリムマジョリティに「包囲」された華人系マジョリティからなる「都市国家」シンガポー

ルを調査対象として選定。さらに分離独立後も続く経済・文化的相互依存と過去の憎悪の記憶、「和解」をめぐるしこりが並存し続ける東ティモールも試行的に研究対象に加え、これら地域のエスニシティ、宗教、人種、経済格差などをめぐって生じた諸紛争の起源、背景などを、政治経済学、歴史学的アプローチによって分析後述の「世論」動向分析の際の基礎データとした。

(2) 政治・経済学、歴史学へのメディア人類学手法の試行的導入

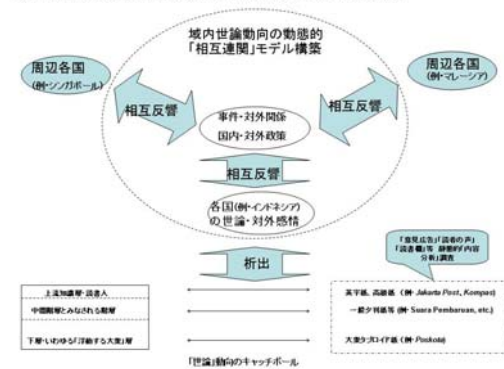
新聞「内容分析」手法を本研究にとり入れた。これにより、特定の事件を焦点にそれをめぐる新聞報道記事・広告等の「内容分析」を通じて、域内世論の「相互反響」を立体的に把握することとした。具体的には、インドネシア、シンガポール、マレーシア各国の主として新聞メディアに着目、宗教、エスニシティをめぐる国内問題、国際紛争に対してなされた両国政府機関や宗教団体、労働組合などの公共広告およびPR 広告について、ナショナリズムとエスニシティの観点からテキストおよび併置された図像に対する数量的な把握を特徴とした「内容分析」を試行した。特に政治宣伝と思われる意見広告については、投稿欄などの関連づけを試みる。対象時期としては戦後以降現代まで、マレーシア粉砕闘争、シンガポール分離独立を経て今日のシンガポールにおけるインドネシア人出稼ぎ労働者排斥、バリ島爆弾テロなど主要な国内・国際事件に力点をおきつつ資料の所在調査・収集、分析を試みた。

(3) 学際的架橋による「域内世論動向の『反響』= 連関モデル」の構築

(1) で述べた政治・経済学、歴史学的アプローチによる「エスノ・ナショナリズム」先行研究、「イスラム」先行研究と、メディアを対象とした人類学・社会学調査研究などの成果を突合せ、討議を行なうことで理論および方法論での架橋を

模索、本研究に必要な方法論、理論の確立を行なうものとした。さらに国際経済学では一般的かつ明白に見出される「域内連関」の枠組みを、エスノ・ナショナリズムをめぐる各世論の域内「相互反響」=「連関」へと準用し、各国、各集団の世論の「相互連関・反響」を立体的に描き出すための理論枠組みの構築を試みた。その際にはメディア人類学的手法に基づき構築された世論動向に関する各種データベースの活用がきわめて重要となった。

域内世論動向の動的「相互連関」モデル構築にむけた方法概念図



4. 研究成果

エスニシティの観点からマレー系ムスリム集団と華人系集団の問題、インドネシアと東ティモールの関係、社会階層的な見地から出稼ぎ者集団と域内経済格差の問題に焦点をあて、これらの問題が多層的に交差していると考えられる個々の現実の事件・事例としてとりあげ調査研究を行った。具体的には、インドネシア、マレーシア、シンガポール、東ティモール4カ国を中心に、インドネシアからマレーシア・シンガポールへの出稼ぎと観光問題、インドネシアと東ティモールの和解と域内経済問題などをめぐる世論動向の分析を試みた。

具体的成果としては、インドネシア人出稼ぎ者の差別的処遇、華人・東ティモール人差別をめぐる各国間の緊張が領土紛争、スポーツ競技、

観光地などでのいざこざを契機にいきなり顕在・扇情化する世論の連関・反響過程が、各国新聞メディアの分析とすり合わせによる各国・各地域世論の国内・域内「相互反響」動向の追跡分析を通して明らかになりつつある。

なお、在外外国人社会(邦人社会)の問題については、各国の対日世論に着目しつつ、調査を継続中である。とりわけ研究分担者の主導によりメディア人類学的方法論をもとに質的分析および内容分析手法の導入がはかられたことにより、「相互連関」を動的・立体的に把握するためのモデルがある程度構築できた。その完成と精緻化に向けた討議が現在も続けられている。

以上の研究実施を踏まえ、2009年1月、とりまとめた研究の成果還元と研究交流のためのミニワークショップを海外連携研究拠点(ガジャマダ大学)で開催した。さらに研究代表者、分担者らは2009年5月現在、本研究の方法論、構築した相互連関モデルの総括を継続、成果執筆に着手している。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 7 件)

① 糸林 誉史 「文化資源とデジタルアーカイブズ」『文化女子大学人文・社会科学研究』第17集 59-69頁 2009年 査読無

② 舩谷 鋭 「レッド・ツーリズムとは何かー中国の革命聖地観光について」『暮らしと観光ー地域からの視座ー』2009年3月号 141-150頁 2009年 査読無

③ 山崎 功 「近代アジアナショナリズムの『分裂』と前近代的『父権性』の復興ー東ティモールとアジアの今後の展望にかえて」『佐賀大学文化教育学部研究論文集』第13集第1号 275-286頁 2008年 査読無

④ 舩谷 鋭 「アジアにおけるオーラルヒストリー:マレーシア、シンガポールを中心に」『日本オーラルヒストリー研究』第3巻 67-73頁 2007年 査読無

⑤ Satoshi Masutani, Malaysian Chinese Literature in Taiwan and New Migration, *The Human Migration and Acculturation in the Pacific Rim*, 2007, Centre for Human Migration and Acculturation Studies, Rikkyo University pp.42-46. 依頼執筆 査読有

⑥ Satoshi Masutani, “Japanese Memories and Chinese Memories about Japanese Occupation of Singapore”, *The People’s Experiences during the Japanese Occupation in Southeast Asian Literature*, Kuala Lumpur: University of Malaya Pr., pp. 198-213. 依頼執筆 査読有

⑦ 糸林 誉史 「ソーシャルキャピタルと新しい公共性」『文化女子大学紀要 人文・社会科学研究』第15巻 75-85頁 2007年 査読無

[学会発表] (計 0 件)

[図書] (計 2 件)

シテイ・ダウラ・コリアティ分担単著 山崎 功 単訳 第3章「発展途上国における経済グローバル化の衝撃」田中豊治、浦田義和編『アジア・コミュニティの多様性と展望』昭和堂 2008年 102-123頁 査読有

舩谷 鋭 分担執筆単著 「馬華文学をめぐる人の移動の変容ーマレーシアの台湾留学生の事例から」『国際的な人の移動と文化変容』ハーベスト社 51-60頁 2007年 依頼執筆 査読有

[産業財産権]

○出願状況(計 0 件)

○取得状況(計 0 件)

[その他]

招聘講演 Isao YAMAZAKI, “Globalisasi Ekonomi dan Dampaknya terhadap Kondisi Sosial-Ekonomi Penduduk Lokal:

Pengalamandari Saga Prefecture, Jepang”
PSJ-UGM International Seminar, Gadjah Mada
University, Jogjakarta, Indonesia, October 29
2007.

6. 研究組織

(1)研究代表者

山崎 功(Yamazaki Isao)
佐賀大学・文化教育学部・准教授
研究者番号:60267458

(2)研究分担者

糸林 誉史(Itobayashi Yoshifumi)
文化女子大学・服装学部・准教授
研究者番号:60301834

2006～2007 年度

舩谷 鋭(Masutani Satoshi)
立教大学・観光学部・教授
研究者番号:90277806

2006～2007 年度

小座野八光(Kozano Yako)
愛知県立大学・外国語学部・准教授
研究者番号:60305513

(3)連携研究者

2008 年度

舩谷 鋭(Masutani Satoshi)
立教大学・観光学部・教授
研究者番号:90277806

2008 年度

小座野八光(Kozano Yako)
愛知県立大学・外国語学部・准教授
研究者番号:60305513